

第 57 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 28 年 2 月 22 日(月) 午前 10 : 30 ~ 12 : 00
2. 開催場所 COM 倶楽部会議室 (箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階)
3. 委員の出席 委員総数 7 名
- 出席委員 7 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、稲井信也、桑田政美、中村保
高谷和彦、須貝昭子、神垣美代香
- 放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)
大平麻由美 (編成課長)
小川 亮 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 タッキー街かどレポ (「タッキーBOX」内)
タッキースペシャル「1.17 箕面市全市一斉総合防災訓練」
- 2) 審議
- 3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

<「タッキー街かどレポ」(「タッキーBOX」内)について>

「タッキー816応援団」の企画で、平常時の身近な情報と、災害時のお住まいの地域の情報の発信、そしてリスナーの拡大を目的にした「タッキー街かどレポーター」を2015年夏に募集しました。9月に開催した講座の受講生の中から登録いただいたレポーターのみなさん自身が話題を見つけ、情報発信していただいています。

内容は、お住まいの地域の身近な情報、例えば「近所のおもしろい風景」や、ご自身が参加している市民活動の催し、留学生のホストファミリー体験談など、それぞれの視点でお話いただいています。

聞き手は、講座当日にも参加した市内在住の若手パーソナリティ 菅濱小香です。

<タッキースペシャル「1.17 箕面市全市一斉総合防災訓練」について>

箕面市は毎年、曜日に関わらず1月17日に市内一斉に防災訓練を行っています。今回は、9時30分から正午までの2時間30分、市内14の全避難所と中継で結ぶことを実現させました。スタジオに2名、レポーターとして災害対策本部、避難所に計3名、タッキーたんけん隊というキャラバン隊で3名、街かどレポーターさんにも2名協力していただき、さらに、地区防災委員会のかたにもご出演いただきました。

放送以外にも、SNSを活用して写真を掲載したり、スタジオは次々と入ってくる情報をさばき、電話を結ぶ訓練、現場のようすを伝える訓練、情報発信訓練を行いました。

番組中、他の街かどレポーターから事務所に情報をもらい、それも放送でご紹介しました。

(2) 審 議

委員長：ただいま番組の説明がありました。それでは番組審議をお願いします。

<「タッキー街かどレポ」(「タッキーBOX」内)について>

委員A：番組の内容的には、原稿を読んでいるだけだったり、話がまとまっていなくて長かったりという印象でした。ただ、取り組みとして必要なコーナー。合いの手をここで入れましょう、みたいな事前打ち合わせのキャッチボールがもう少し時間をかけて必要。

委員B：「街かどレポーター」さんは素人なので、あれもこれも伝えたいなど言うのが伝わってきました。風車のお話などは情景が浮かんでくるようでした。ご本人が感動されていて、その辺りは良く伝わったと思いました。ただパーソナリティがまだ若くて、引き出し方が少し遠慮がちでした。ずっと街かどレポーターがおしゃべりしている感じで、相槌も何となくですが本当に感心しているようではなく、ただ相槌をいれなくてはといった感じでした。場数が増えれば引き出し方も良くなっていくでしょう。

委員C：お節料理の話は、パーソナリティがポンっと投げて、後はダーッと書いていることを読んでいるみたいでした。盛りだくさんで言いたいことがいっぱいときは、パーソナリティが交通整理をしてくれたら聞ける内容になります。もう少し掛け合いがあると聴きやすいと思いました。

委員D：風車の話は、携わってこられたみなさんの思いを汲み取れている内容でした。もっと身近な話題をどんどん提供していただく方がおもしろいと思いました。普段の言葉でおしゃべりしていただけるようになればいいかとも思います。

委員E：ある程度の内容への演出は必要でしょう。聞いていて「見える化」というか、その辺りの技術を上げればいいんでしょう。レポーターも地域のネタ探しとか、情報係みたいな感じでたくさん増えていくとタッキーにとっても質のいい番組制作に繋がっていくのではないのでしょうか。地道に続けていけば広がっていくと思います。

委員F：相槌がワンパターンで、単調で気になりました。基本的にプロとしてのパーソナリティ、セミプロとしてのレポーター、市民としての街かどレポーターがいる。だいたいそんな体系で考えています。できれば、セミプロのかたはプロに、街かどレポーターのかたはセミプロに徐々にステップアップしていくようになっていけばいいですね。そうなるためには、打ち合わせのときに本番と同じことを話してもらおう。一度リハーサルすれば、このあたりで相槌を入れようなどと分かります。相手は市民のかたですからつつい原稿読んでしまいます。他にも、面白いネタについては別の番組なり、他のコーナーで深掘りしてみるのも、いいのではないのでしょうか。今度はセミプロのかたが行って取材してみると、単に一つの情報だったものに膨らみが出るでしょう。

事務局：パーソナリティも若手で、もっと箕面のことを知ってもらいたいという思いもあり起用しました。ご意見いただいたように、話の引き出し方や相槌がうまくできていない箇所がありますが、応援団のみなさんから、一緒に育てていきましょうと温かい言葉をいただき、我々も一緒になってみなさんと成長していければと考えています。

委員長：身近な話題でも、広がっていく要素はあるので続けていってほしいと思います。

<タッキースペシャル「1.17 箕面市全市一斉総合防災訓練」について>

委員A：長時間取り組むのはたいへんだが、必要なこと。できれば来年も、今度は避難所だけでなく、避難所へ向かう途中のようすなども中継できたら良いと思う。また、全体的にもっと臨場感があるように構成できたらなおいい。避難所でタッキーが流れていなかったのが残念。

委員B：長い時間だったので、聴取者としてはいろいろなところで訓練をやっているんだということは分かったが、どの避難所でも似たような訓練をやっていたので、その避難所ならではの内容や臨場感が伝えられれば良かった。レポーターだけでなく、参加者の生の声も伝える姿勢があればなおよかった。

委員C：内容はどの避難所も同じようでしたので、参加者の声も聞けたらよかったです。臨場感は伝わったと思う。

委員D：各避難所で何名避難しているか、という数字が1カ所しか出てこなかった。そこが肝心なのにぬけていた。各レポーターは会場のようすを伝える工夫をしていたことに好感をもてた。特に箕面小校区のことを伝えていたレポーターは校区の特徴をうまく伝えていた。

委員E：音声が聴きづらい中継箇所があった。技術的な問題。中継と中継の間でタッキーの役割をきちっと説明していたのは良かった。一般参加者の声がほしかった。

委員F：臨場感がなかった。各避難所で同じような話が重なっていたので、2時間半の番組のデザインが必要。地区によってはユニークな取り組みをしているところもあったので、事前に、この地区はこれを取り上げようなど調整が必要。参加者の声も、レポーターが代わりに言っていたのが残念だった。

事務局：レポーターが代わりに伝えた部分は、現場で聞き取りして、自分でまとめて伝える訓練として、あえてその手法でやった。

委員長：箕面市の防災訓練で一番大切な機会なので、タッキーが関わって、地域のみなさんと結びつきを築きながら進めていくのはいいこと。パーソナリティ、レポーターそれぞれの役割が見えたかなと考える。これを基にして、各地区のみなさんともコミュニケーションをはかってほしい。

7. 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

なし

8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://company.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 28 年 2 月 22 日

箕面FMまちそだて株式会社

番組審議会